

イヌイ

Juncus yokoscensis (Franch. et Savat.) Satake

イグサ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー

該当なし

選定理由

近年、石川県の海岸開発が進行する一方、従来の海岸の草地等に防風林など植林事業が進むことなどにより、海岸の自然植生が大幅に減少しつつある。もともと、稀産の本種に絶滅の危険が著しく増大している。
(現況:RO)

形態

茎が円筒状であるにもかかわらず圧扁して、数回振れていることは本種の顕著な特徴である。葉は茎の下部に鱗片状となり濃褐色を呈し、根茎は太く径2~4mm、広卵形の鱗片で覆われている。最下苞は時として、花序より長い。花序には、10~30花が着き、花被片は長楕円形で鋭く尖る。花被片の背面は緑褐色で両側面は黒褐色で光沢がある。蒴果は長卵形で先が花被片よりやや長い。

国内分布

本州~北海道に分布。国外では千島列島、樺太にも分布。

県内分布

外浦区、内浦区、南加賀区に分布。

生態など

開花期は5~7月。

生育環境

海岸の砂地。

危険要因

海岸開発、草地開発、踏みつけ。

特記事項

観察にはよく注意しないと、捻じれを見落とすことがある。



米山競一・2007年7月28日・南加賀

分布図はありません。

県内の分布